

第47回 日本股関節学会学術集会
The 47th Annual Meeting of the Japanese Hip Society

THE NEW VALUE FRONTIER

KYOCERA

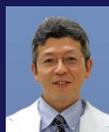
LANCHEON SEMINAR — 2

ランチョンセミナー2

WEB開催※
(ライブ配信)

2020年10月23日(金)
11:30 ~ 12:30 <予定>

座長 || 後藤 公志 先生
京都大学



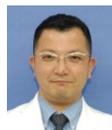
※現地でも視聴できます。

THEMA

PALACOS®骨セメントの歴史と成績

Clinical and basic results of PALACOS® bone cement

演者 || おおえ 賢一 先生
関西医科大学



共催：第47回 日本股関節学会学術集会
京セラ株式会社

単位：専門医資格継続単位 1単位
[11] 骨盤・股関節疾患

京セラ株式会社 メディカル事業部

〒612-8501 京都市伏見区竹田烏羽殿町6番地
<https://www.kyocera.co.jp/prdct/medical/>

© 2020 KYOCERA Corporation

PALACOS®骨セメントの歴史と成績

Clinical and basic results of PALACOS® bone cement

関西医科大学 おおえ 賢一

ポリメチルメタクリレート (polymethylmethacrylate: PMMA) は1902年に化学者Otto Rohmによって世に紹介され、“プレキシガラス(ガラス様の硬質材料)”として多くの目的のために使われてきた。1936年Kulzer社が粉碎したPMMA粉末と過酸化ベンゾイル(BPO)が追加された液体のモノマーを混ぜることによって粘土状にすることを可能とし、1943年Degussa and Kulzer社がPMMA骨セメントの化学製品製造のための方法を確立し、今日の骨セメントの礎を築いた。最初の臨床応用は1949年KaierとJansenによる自己硬化性樹脂とされ、1951年Houboushがインプラントの固定にセメントを使用している。1958年Sir John

Charnleyは初めて自己重合型のPMMA骨セメントを使い、人工関節時代の幕開けとなった。Palacosの歴史は古く、1958年Heraeus Kulzer社より歯科領域の固定材料として販売開始となったPMMA骨セメントである。本邦においては2018年より使用可能となったが、各国における現在のシェアは米国35%、英国62%、ドイツ92%、ノルウェー64%、スウェーデン57%であり、世界的に最も使用されている。Palacosの特徴は、分子量が高いため経年変化に強いことであるが、セメントステムとの相性は検討の余地がある。本講演では、レジストリーや当科における基礎研究を含め、Palacosの歴史と成績について概説する。